



地域医療連携室だより Vol. 145



発行元 地方独立行政法人
市立大津市民病院 地域医療連携室
住 所 〒520-0804
滋賀県大津市本宮二丁目9番9号
電 話 077-526-8192
F A X 077-522-0192 発行日:2021年6月1日

市立大津市民病院 検索

だより内に が 5ヶ所登場しています。ぜひ探してみてください。疫病退散。

地域医療連携室担当部長のご挨拶

なかじま としひろ

市立大津市民病院 副院長：中嶋 敏宏



地域の先生方におかれましては、日頃よりいろいろとお世話になりありがとうございます。地域医療連携室担当の副院長の中嶋と申します。どうぞよろしく願いいたします。

地域医療連携室は昨年より院長直轄の独立組織となり、山澤弘子室長を中心に地域の先生方からの診察や検査の予約、紹介状や逆紹介、返書の管理など病診連携に関わる業務を行っております。最近の部署のトピックスとしては、FAX が繋がりにくい時があるというご意見があったため、本年2月にFAX 直通回線を強化いたしました。また3月にはホームページのリニューアルも行いました。病院ホームページのトップ画面に「地域医療連携」タブをおいて簡単にアクセスできるようにいたしましたので、是非ホームページもご覧ください。その中には業務についてのいろいろなページがあり、かかりつけ医の検索もできます。また院内に掲示している各部門の広告物・掲示物も、「院内各部門からのお知らせ」にアップしていますので、参考にさせていただければ幸いです。

昨年度は新型コロナウイルス感染症に対する対策のため、例年月1回実施して市民の皆様にご好評であった市立大津市民大学健康講座はすべて中止とし、企画していた地域の先生方との病診連携懇話会・懇談会も中止せざるを得ませんでした。今年度もまだ感染がおさまってくる心配がありませんが、当院は昨年12月新しく稼動を開始した感染症ERにて、新型コロナウイルス感染症およびその擬似患者をしっかりと受け入れてまいります。またそれ以外の一般の患者様の紹介も制限や支障なく受け入れさせていただきますので、これまで以上に検査や診察のご紹介をお願いいたします。地域の先生方と深く連携し、市民の命と生活を守るよう最大限の努力をしていきたいと考えておりますので、これからも先生方のご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



周術期管理チームのご紹介

はしぐち みつこ
 麻酔科 診療部長: 橋口 光子

すべての手術患者が目指すべきゴールは、『術後の早期回復』であり、患者様の術前状態を最適化する必要があります。そのためには、主治医のみがリスク評価や術前管理を行うのではなく、多くの職種が協働して、術前リスクの把握、必要に応じた患者教育、並存疾患の治療介入を行い、それらの情報を徹底して共有することが重要です。

当院では、リスクの高い手術患者への早期介入を目的として、2017年より麻酔科外来を開設しました。周術期管理チーム認定看護師とともに、入院前の麻酔科外来受診に対応してきましたが、禁煙指導や休薬指導を行う十分な時間を確保できない、主治医が認識していないリスクが見落とされる、といった問題点がありました。そこで、2019年度に周術期管理



図 1

チームワーキンググループを立ち上げ、2020年度の入退院センター稼働に併せて、『周術期管理チーム』として活動を開始いたしました。

現在、周術期管理チーム認定を取得した看護師3名、薬剤師1名、臨床工学技士1名が、外科医や麻酔科医をはじめとした様々な職種(図1)のスタッフ、入退院センターと連携し、周術期全般の支援を行なっています。

各診療科外来にて手術決定

入退院センターにて
『周術期外来予約』

入退院センター

薬剤師: 服薬内容確認・休薬指示確認
 看護師: 問診・入院生活オリエンテーション



歯科外来

口腔機能管理・動揺歯処置・マウスピース作成



麻酔科外来

看護師: 問診・診察・手術室オリエンテーション
 麻酔科医: 術前評価・麻酔説明

『周術期外来受診日』

図 2

術前の患者様に対するご指導のお願い

術前の禁酒・禁煙、体力作り、口腔機能管理など(図3)により、手術のリスクをへらし、術後の早期回復につなげることができます。手術をお受けになるかかりつけの患者様がおられましたら、ご指導いただけますと幸いです。

入院支援における周術期管理チームの役割

手術前の支援として、手術患者の一部を対象に、入院二週間前をめどに『周術期外来』を受診していただき、入院前から多職種が連携した診療を行っています(図2)。今後、予定手術をうけられるすべての患者様にその対象を拡大し、入院前に適切な支援を受けられるようにしていく予定です。

麻酔科外来

麻酔科外来では、周術期管理チーム認定看護師が中心となって診察を行います。入退院センターや歯科外来で得た情報を元に、手術に関する専門性を持ったスタッフがリスクを把握し対処します。必要に応じて、他診療科への受診、禁煙外来受診、外来栄養指導受診について検討し、さらに多くの専門領域と連携し、より良い状態で手術に臨めるよう支援します。

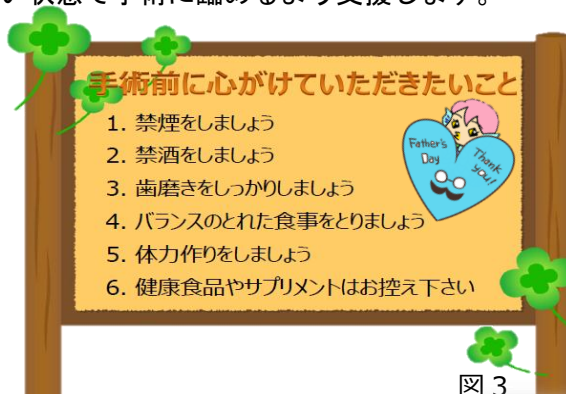


図 3

麻酔科外来では入院や手術に関する不安やちょっとした疑問について、手術に直接関わるスタッフにご相談いただけます。

周術期管理チームは、患者様が安心して手術に臨み、安全に手術を受けていただき、満足して退院していただくためのサポートをいたします。



臨床検査部技師長就任のご挨拶

臨床検査部技師長：田口 一也 たぐち かずや

令和3年4月より臨床検査部技師長に就任いたしました臨床検査技師の田口一也です。臨床検査技師の業務は採取検体を取り扱う検査から患者様に直接対応する検査まで多種多様であり、近頃は新型コロナウイルスで話題になっているPCR検査も我々臨床検査技師の仕事です。私はここ30年近く主に病理検査を担当しており、臨床検査の中ではやや特殊とされる分野になりますが当院の病理検査について少し紹介させていただきます。



当院の病理検査室では臨床検査技師4名と病理診断科の常勤病理医2名とがチーム組み、生検材料や手術材料の病理組織診断、穿刺材料や体腔液等の細胞診断などの病理診断業務にあたっています。切出し、包埋、薄切、染色と手作業の多い業務で、術中の迅速診断や近年増加傾向にある癌遺伝子検査にも対応しています。

また、一般的に病院のカルテの保存期間は5年とされていますが、当院の倉庫には30年以上も前の病理診断報告書や病理標本が大切に保管されています。当病理検査室は日常診療のみならず、患者様の何年も前の病理診断の情報提供や、当時の標本を用いた追加検査の実施なども視野に入れています。時には既にカルテが存在しない患者様の情報を、患者様本人の記憶を頼りに当時の手書き台帳を何冊もめくって探し出す事があります。



まだまだアナログ的な部分の多く残る分野ですが、診療に欠かせない縁の下の力持ちとして、これからも地域の医療に携わってまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。





クイズの答え：1 ページ目右下/2 ページ目 右下/3 ページ目 左下/4 ページ目 MSWアイコさんタイトル上部イラスト内/地域医療連携室よりタイトル左

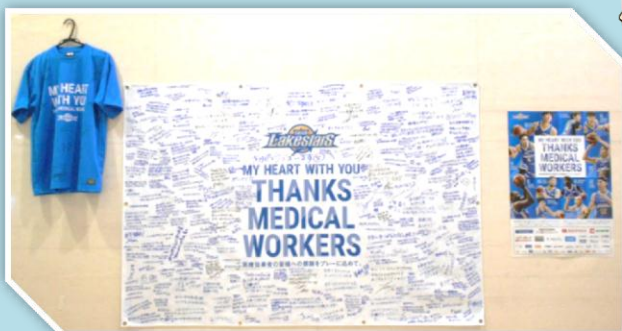
※マスクは外して描いています

皆様からのご支援に厚く御礼申し上げます

COVID-19 診療に関して地域の皆様から様々な声援・激励のお言葉や差し入れ、寄せ書き横断幕などを頂戴し、職員一同心より感謝いたしますとともに日々の診療の励みにさせていただいております。

当院は今後も COVID-19 の一日も早い収束を願いつつ、日々の診療に全力を尽くして参ります。

頂戴したご支援・ご寄附の詳細は当院ホームページでご紹介させていただいております。



地域医療連携室より

地域医療連携室の橋本裕美です。いつもお世話になりありがとうございます。

大学病院や行政の医療福祉推進課での事務を経て昨年10月よりこちらで勤務しております。

紹介状を持参された患者さんの受付業務や、紹介患者さんの予約業務、びわこあさがおネットへの加入の説明などしております。また診療情報提供書の依頼をうけ、医院・他病院もしくは当院の先生に作成のお願いをすることもあり、お忙しい中早々にご対応いただきいつも感謝しております。まだまだ不慣れで皆様にご迷惑をおかけしながらも、温かなメンバーに囲まれて日々楽しく仕事をさせていただいております。

いつも明るく活気ある地域医療連携室ですので、みなさまお気軽にお寄りください。

はしもと ひろみ
地域医療連携室：橋本 裕美

